

所属名	事務事業名	ページ番号
駐屯地対策室	佐賀空港利活用促進事業	2

令和5年度 事務事業進捗報告シート

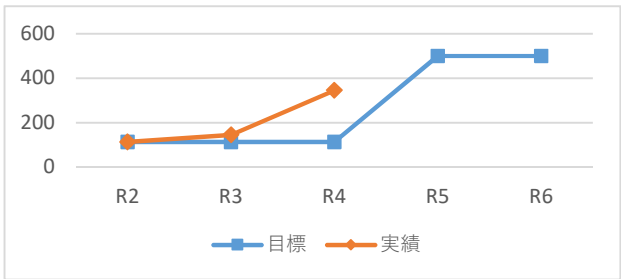
事務事業名	佐賀空港利活用促進事業	事業期間	平成 10 ~ 年度
担当部署・係名	駐屯地対策室	担当課長名	川崎 浩
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心して利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	広域交通の利便性の向上	

1 事務事業の基本情報

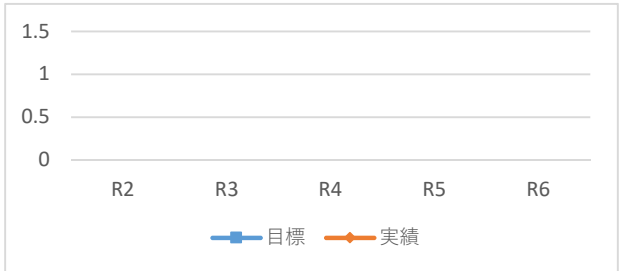
事業概要・目的	九州佐賀国際空港活性化推進協議会の取組への参画等を通じて、九州佐賀国際空港の利活用の促進を図る。				
事業の対象者	市民				
令和4年度 主な活動実績	九州佐賀国際空港活性化推進協議会の取組（マイエアポート運動推進事業、利用促進事業、アクセス向上対策事業等）への参画				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,000	1,000	1,000		
うち佐賀市の負担額	1,000	1,000	1,000		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
佐賀空港利用者数						千人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
113	113 145	113 345	500	500		



成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		



3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年から国際線は全便運休、国内線も減便が続いていたが、令和4年7月に東京便（5便）が復便したため、昨年度に比べ利用者が約20万人増加した。



成果目標達成に向けた対応策等
新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、人流や経済活動は回復しつつある。今後も羽田便の増便や新規路線の就航に向けた取組など、九州佐賀国際空港活性化推進協議会の取組を通じて、引き続き、佐賀空港の利活用の促進に努めていく。